

### 豚の系統組合せ試験

異系統Lによる二元雑種BL雌の繁殖性および三元雑種BL・Wの産肉性の比較

瀬川 隆 ・ \*古賀康弘 ・ 大田 均 ・ 松元計士 ・ 横山純夫 (鹿児島県畜産試験場 ・ \*福岡総合農業試験場)

Takashi EGAWA, Yasuhiro KOGA, Hitoshi OHTA, Kazuhito MATUMOTO and Sumio YOKOYAMA :  
Comparative Performance of Different Strain Cross

系統豚は他の系統豚と交配し、2元あるいは3元雑種を作ることにより高い繁殖性または産肉性が期待される。そこでパークシャー系統豚を用いて3元雑種を作る試験を実施したので報告する。

#### 1. 試験方法

パークシャー系統豚「サツマ」(6世代豚) 雌に宮崎県ランドレース系統豚「ハマユウL」雄を交配したBL母豚(以下ハマユウBLと略す)17頭と農水省宮崎種畜牧場ランドレース系統豚「サクラ301」雄を交配したBL母豚(以下サクラ301BLと略す)17頭を用い、農水省白河種畜牧場茨城支場大ヨークシャー系統豚(3世代豚)雄5頭との組合せにより、BL・Wを作出し、その繁殖性、産肉性の比較を行った。

#### 1) 試験区分

第1表 交配組合せ繁殖試験区分

交配雌	交配雄	ハマユウ	サクラ301
		BL	BL
大ヨークシャーWG3(5頭)		17頭	17頭

第2表 肥育試験区分

区	ハマユウBL (BL・W)	サクラ301BL (BL・W)
供試頭数	♂26 ♀31 計57	♂26 ♀28 計54

2) 試験期間 繁殖試験-1982年9月~11月まで分娩期間 肥育試験-1982年11月~'83年6月まで調査期間

3) 試験項目 繁殖試験-受胎率, 分娩頭数, 哺乳開始頭数, 離乳頭数, 育成率, 子豚一頭当たり体重等, 産肉試験-105kg到達日齢, 一日平均増体重, 飼料要求率,

第3表 繁殖成績

組合せ	交配頭数	受胎頭数	受胎率	分娩腹数	分娩頭数	哺乳開始頭数	28日齢離乳頭数	28日齢離乳時育成率	子豚一頭当たり体重		
									生時	離乳時	
茨城支場 G3	ハマユウ	17	15	88.2	15	10.5±2.7	10.2±2.7	9.0±2.0	88.2	1.21±0.13	5.55±0.77
	サクラ301	17	15	88.2	15	9.7±2.2	9.3±2.0	8.6±2.4	92.5	1.36±0.17	5.78±0.74
平均値の差の検定		-	-	-	-	N・S	N・S	N・S	-	*	N・S

N・S…………有意差なし \*…………5%水準有意差

第4表 肥育成績

組合せ	例数	105kg日齢	1日平均増体重	飼料要求率	背腰長II	背脂肪の厚さ		ロース断面積	ハムの割合	
						背	3部位平均			
茨城支場 G3	ハマユウ	♂26 ♀31 計57	191.5	727.4	3.44	71.9	1.54	2.62	24.6	31.3
	サクラ301	♂25 ♀28 計53	193.1	706.7	3.60	72.1	1.46	1.46	23.8	31.5
平均値の差の検定			N・S	N・S	*	N・S	N・S	N・S	N・S	N・S

注) 数値はすべて♂♀平均値 N・S…………有意差なし \*…………5%水準有意差

背腰長II, 背脂肪の厚さ, ロース断面積, ハムの割合。

#### 2. 結果および考察

1) 繁殖成績(第3表)すべて初産の成績で、子豚頭数は哺乳開始時、離乳時ともにハマユウBL区がサクラ301BL区よりやや多かったが、有意差はなかった。子豚一頭当たり体重は、哺乳開始時にハマユウBL区は1.21kgで、サクラ301BL区の1.36kgに比べてやや小さいが、これはハマユウBL区分娩子豚数が多かったためと思われる。離乳時における子豚体重にはほとんど差はみられなかった。

育成率は両区とも90%前後の成績を示した。以上により両区の繁殖成績には優劣は認められなかった。

2) 肥育成績(第4表)一日平均増体重はハマユウBL・W 727.4g, サクラ301BL・W 706.7gであり、有意差は認められなかった。

飼料要求率においては、ハマユウBL・Wがサクラ301BL・Wに比べて小さな値を示し、5%水準で有意差が認められた。

と体形質における背腰長II, 背脂肪の厚さ, ロース断面積, ハムの割合にはほとんど差は認められず、両区ともほぼ良好な値を示した。

#### 3. 要約

系統間3元雑種BL・W(B, Wはそれぞれ同じ系統)のLにハマユウ, サクラ301の2つの系統を用いた場合、BL母豚がBL・Wを産出する際の繁殖成績、およびBL・Wの肥育成績には大きな差はみられなかった。